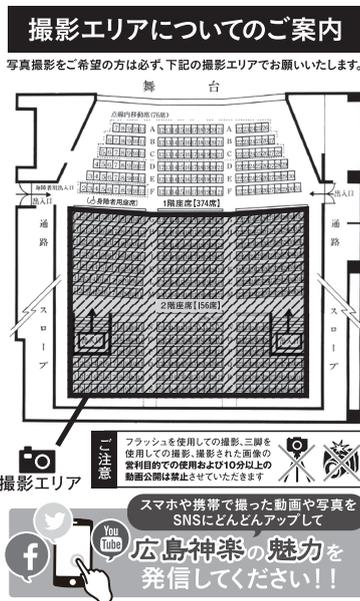


広島神楽

定期公演 へようこそ

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます。
当公演では、全てのお客様に気持ちよく神楽を鑑賞していただくため、下記のルールを設けています。

- ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。
- (1) 座席での**飲食は出来ません**。ロビーをご利用下さい。
 - (2) 上演中の立ち歩きや大声での私語など**他のお客様のご迷惑になる行為**はご遠慮下さい。
 - (3) お子様連れの方は、お子様が舞台の前に出られると、演出等で**危険な場合**がございます。**着席**での鑑賞をお願いします。
 - (4) 撮影について
→ 写真撮影は右図の**撮影エリア**で行って下さい。
※フラッシュの使用、三脚を使用**しての撮影は禁止**します。
(マスコミ関係など主催者の許可を得ている場合を除く)
- 以上です。どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。



7月3日のタイムスケジュール
出演: 梶矢神楽団(安芸高田市)
19:00~開演
19:05~第一幕『塵輪』
(およそ40分)
~幕間(休憩)~
20:05~第二幕『八岐大蛇』
(およそ40分)
20:45~記念撮影会

衣装やお面を実際に見ていただき、記念撮影をしていただけます。携帯電話での撮影も大歓迎です。本日の記念には是非ご参加下さい。また、神楽団との交流もしていただけます。疑問に思ったことなど、直接団員にお聞きください。(舞台へは靴を脱いでお上がりください。)

※記載の時間は目安です。多少前後する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

かじやかぐらだん

梶矢神楽団プロフィール ~安芸高田市~

当神楽団は安芸高田市高宮町川根にあり、大元神楽の流れを汲んでいます。神社の古文書には江戸時代中期、現在の島根県邑智郡邑南町の羽須美村阿須那の齊藤宮司と上田の三上宮司より神職神楽を伝授されたと記されています。

以来、戦時中も中断することなく、古典演目を伝承していることが認められ、昭和29年に広島県無形民俗文化財の指定を受けました。(指定演目「鍾馗」)

現在、新しい演目が人気を集めておりますが、団員一丸となって古典演目の伝承に精進してまいります。

第一幕『塵輪』 じんりん

人皇第14代仲哀(ちゅうあい)天皇の御代、異国より日本征伐を企てて数万の軍勢が攻めてきました。

その中に塵輪という身に翼があり、黒雲に乗って虚空を自由に飛び回る神通自在の大將軍がおり、国々村里を荒らし、多くの人民を滅ぼしていました。しかし、我が国にはこの大悪鬼にかなう者がいませんでした。

そこで仲哀天皇自ら不思議な霊力のある十善万乗(じゅうぜんばんじょう)の神変不測の弓矢を持って、神通力を持ち戦術にも長けた鬼を退治されたという物語です。

大太鼓	—	上田	正孝
小太鼓	—	徳物	一則
手打鉦	—	道庭	晃
〃	—	道庭	純樹
笛	—	古太刀	秋貴子

仲哀天皇	—	大久保	俊佑
高麻呂	—	神田	光太郎
塵輪	—	行田	雅春
小鬼	—	栄野	竜二
小鬼	—	大下	真汰

第二幕『八岐大蛇』 やまたのおろち

出雲の国に暮らす足名椎(あしなづち)・手名椎(てなづち)老夫婦には八人の娘がいました。しかし年毎に一人またひとり大蛇に飲み取られ、七人まで娘を失いました。そしていよいよ八人目の姫が飲み取られる季節となり、老夫婦と八人目の姫・奇稲田姫(くしいなだひめ)は嘆き悲しんでいました。そこへ高天原(たかまがはら)から舞い降りた須佐之男命(すさのおのみこと)が通りかかり、その訳を聞きます。

尊は、大蛇退治を決め、老夫婦に八塩折(やしおり)の毒酒を造らせ酒を入れた樽の後に姫を立たせます。やがて、どこからともなく大蛇が現れ、毒酒に映った姫の影を飲み干していきます。酔いの回るほどに暴れ狂い、しだいに酔い伏してしまいます。これを待ち構えていた尊は、壮絶な戦いの末、大蛇を退治します。

大蛇の腹を切り裂くと、一本の刀が出てきます。これを天叢雲劍(あめのむらくものつるぎ)と名づけ、天照大神(あまてらすおおみかみ)に捧げます。そしてめでたく奇稲田姫を妻とし、平和で豊かな出雲の里で暮らしていくという物語です。

大太鼓	—	長尾	良文
小太鼓	—	上田	正幸
手打鉦	—	徳物	一則
笛	—	古太刀	秋貴子

須佐之男命	—	大久保	俊佑
足名椎	—	道庭	晃
手名椎	—	柴野	利成
奇稲田姫	—	道庭	純樹
大蛇	—	柴野	竜二
〃	—	柴野	利成
〃	—	神田	光太郎
〃	—	行田	雅春
〃	—	大下	真汰
〃	—	安見	真人

※出演者は予告無く変更になる場合がございます。
※助成/一般社団法人地域創造